

一側性難聴児と両側性難聴児の「聞こえの質」評価

【はじめに】

一側性難聴児は片耳の聞こえが正常であることから、そのニーズに気付きにくく、これまで見過ごされてきた側面があった。本研究では両側性難聴児と比較して、一側性難聴児の聞こえの質について調査した結果を報告する。

聴覚障害児の聞こえや補聴器・人工内耳の装用効果は語音や非語音を用いた客観的評価と共に、本人の意思を反映した主観的評価が求められる。本研究では2001年に開発した聞こえの自己評価尺度(中川, 2003)を基に、気持ちと参加の項目を追加して「聞こえの質」を調査した。ノンパラメトリック項目反応理論(NIRT)を用いて結果を分析し、抽出された質問項目より対象児の聞こえの質を比較した。

【方法】

対象者：小学校3年生から中学校3年生に在籍する76名の聴覚障害児で、一側性難聴児(片耳の聴力が正常範囲にあり患耳との聴力差が50dB以上)5名、良聴耳にも軽度の聴力損失があり、同程度の聴力差がある両側性難聴児6名、そして左右耳の聴力差が平均7.3dBで平均聴力レベルが75dB以下の両側性難聴児37名であった。

手続き：作成した質問紙は聞こえ8項目、聴覚的理解(聞こえた内容が理解できる)8項目、気持ち4項目、そして参加4項目の合計24項目から構成されていた。対象者にはそれぞれの質問項目に対して「いつもない」「ないことが多い」「ないことが時々ある」「あることが多い」「いつもある」の5件法で回答を求めた。

得られた結果はNIRTを用いて分析し、聞こえ5項目、聴覚的理解6項目、そして気持ち3項目がそれぞれ抽出され、参加については基準に合う項目が抽出されなかった。選択された14項目(表1)を用いて対象者の聞こえの質を比較した。

聞こえ(5項目)
授業中、先生の声が聞こえますか
グループの話し合いで、友達の声が聞こえますか
休み時間、友達の声が聞こえますか
校庭や体育館で話を聞くと、声が聞こえますか
家で二人で話をすると、相手の声が聞こえますか
聴覚的理解(6項目)
授業中、先生が何を話しているかわかりますか
グループの話し合いで、友達が何を言っているかわかりますか
休み時間、友たちが何を話しているかわかりますか
校庭や体育館で話を聞くと、何をいっているかわかりますか
マスクをしたり、離れていると、相手が何を話しているかわかりますか
学校の音楽の時間や発表会で、楽器や歌の内容がわかりますか
気持ち(3項目)
ちゃんと聞き取ったか心配になりますか
集中して、聞いていると疲れますか
相手の話が分からないと、腹が立ったり、イライラしたりしますか

【結果と考察】

回答はそれぞれ0から4に点数化し、聞こえと聴覚的理解そして気持ちに関する総合得点をパーセント化して聞こえの質を表した。3群の3領域に差があるかU検定を実施した。その結果、一側性難聴児群は聴力差が小さい両側性難聴児群と比較すると、聞こえや気持ちの領域では差がなく、聴覚的理解の領域で有意に良い結果を示した。これは先行研究のBorton他(2010)やUmansky他(2011)の結果とほぼ同様であった。それに対して、聴力差が大きい両側性難聴児群はいずれの領域についても、一側性難聴児群と比較すると有意

に低く、各領域を構成する質問項目のヒストグラムからも同様の傾向が見られた。これは良聴耳にも聴力損失があることに起因すると思われるが、症例数を重ねて検討する必要がある。